

日本骨髄バンクの現状（2002年7月末）詳細は別添一覧を参照下さい。

	前月	当月	現在数	累計数
ドナー登録者数	1,564	1,619	156,211	194,088
患者登録者数	143	168	1,841	12,898
骨髄移植例数	64	66	-	4,275

注) 数値は速報値のため次月以降に訂正されることがあります。

① 移植5000例まであと142例。9月28日に記念大会を実施します。

【1】7月の登録会。開催数、登録者数とも順調。にもかかわらず、取消者が - - 7月のドナー登録者数は1619人で、取消者数は1074人、実質増加数は545人という実績でした。登録会は57回実施され(うち献血併行型48回)、合計744人の方にご登録をいただきました。しかし、取消者数が新規登録者数の66%をしめるほど多かったため、登録会回数は増加しているものの、登録者数では前年同月を下回るという結果となりました。都道府県別の登録会開催数は、東京11回、福島9回、石川7回、沖縄6回、秋田4回、茨城、北海道、京都2回、神奈川、新潟、静岡、愛知、大阪、山口、兵庫、熊本、福井、島根、奈良、栃木、徳島、岐阜が1回でした。【2】新規ドナー登録者数、伸び悩みか。年度登録者4万人達成は下半期の成果如何に 前年同月比で、6月まで21カ月連続で伸びていた月間新規ドナー登録者数が、7月は減少となりました。月間ドナー登録者数が、2000年10月から伸びてきた主因は、各地のボランティアの皆さま、地方行政、日本赤十字社など関係者各位のご協力とご尽力により、いわゆる「行政主導の献血併行登録会」が大幅に増えたことによるものです。2001年度は献血並行登録会の開催数は500回弱。6000人弱の登録者があり、従来型のドナー登録会と合わせると1万人以上と、総登録者の約45%を占めるまでになりました。今年1月から6月の新規登録者数は、前年同期に比べて約30%増、登録会開催数は約85%増でした。このペースが維持されるとすると、2002年度登録者数は3万人となります。それでも年度目標の4万人の4分の3程度の水準ですが、年度登録者数が3万人(年度最高記録は1993年度の2万6800人)を超えて目標に近づくか、昨年並みにとどまるかは、9月以降の成果如何にかかっています。下半期好調だった昨年同期を上回る登録者増大、年度登録数記録更新のため、関係者の皆さまのさらなるご協力をお願いします。【3】地区普及広報委員研修会、各地で開催。ドナー登録推進について共通認識確認 6月23日から8月3日にかけて、全国6カ所において当財団地区普及広報委員研修会が開催されました。「行政主導の献血併行」のモデル例である福島県(年間約90回開催予定)、愛知県(年間約70回開催予定)の実績を研究し、各地に浸透させていくことを主眼に、ドナー登録推進について研鑽を積みました。(1)先進事例の速やかな各地への浸透、(2)各地における本年度下期計画の上積み、(3)12月の「推進月間」における全国一斉登録会の成功(内容は次号でお伝えする予定です) - - を確認しあいました。

2 第5回骨髄バンク公開フォーラム開催。目標へむけての議論展開

当財団と全国骨髄バンク推進連絡協議会の主催による第5回骨髄バンク公開フォーラム「30万人へ、そして年間1000例へ」が、7月20日(土)、全労済東京会館(東京・西新宿)で開催されました。第1部「コーディネート体制の充実」では、今後、移植需要が年間3000例と予測されることを前提に、財団のコーディネート体制強化の必要性について議論され、専任コーディネーター体制の確立などでコーディネートの迅速化をはかること、そのために人的手当と予算が必要なが確認されました。第2部「30万人を目指すドナー登録拡大について」では、行政主導の献血併行登録会がドナー登録拡大に有効であるものの、現実には地域格差があることが指摘されました。成果をあげている先進の福島県の取組発表をヒントに格差の是正をはかり、地方行政主導による登録会の推進が求められました。また、日本赤十字社のドナー募集活動に係る位置付けの明確化など、発想転換が必要との議論もありました。第3部は「患者負担金の軽減について」。2年後の保険適用の改定に照準をあわせての行動などが確認され、それまでの妥協策として補助金の増額要求や税制控除を利用すること、移植が必要な患者の負担金が医療費として認められないという矛盾に対する法的対応と大幅な補助金増額を求めていこうという声が多くあがりました。

3 国の審議会中間まとめ、毎月2回の精力的開催で論議が一巡

本年3月より開始された国の審議会である「厚生科学審議会疾病対策部会造血幹細胞移植委員会」(委員長・斎藤英彦 国立名古屋病院院長)は、7月31日(水)開催の第9回目の会議で、下記4つの主要テーマについての論議が一巡したことから、中間まとめを行いました。(1)需給バランス 骨髄移植は高齢者等への適応拡大で、年間3000例へ大幅増加すると予測されるため、今後、研究班や関係学会に意見を聞く。ドナー適応年齢も拡大する方向。さい帯血では、保存目標の見直しとして、細胞数が多いさい帯血に移行し、保存数を確保する方向で論議を進める。末梢血幹細胞移植等は、研究班や関係学会から安全性、有効性の評価についての報告を受け、論議を進める。(2)実施体制 骨髄バンクとさい帯血バンクとの連携推進が求められ、献血併行ドナー登録では地方行政の役割が重要。コーディネート業務の重要性、責任の明確化の観点からコーディネーターの専任化が必要。(3)安全性の確保 国際的な基準、規制水準を参考にし、関係学会の意見を確認すること、安全基準担保措置として第三者機関の査察なども必要である。ドナーの安全確保、補償のあり方について、さい帯血プライベートバンクの実態把握、規制の可否、安全対策については、今後、論議を深める。(4)財源対策 国民の医療として定着し、今後さらに大幅増加が予測されている造血幹細胞移植については、そのあっせん機関である骨髄バンク、さい帯血バンクの運営費は、基本的に医療保険適用対象とするよう委員会として合意。当面は、事業支援のために国庫補助金の大幅増額が必要。地方自治体等の関係者間の役割分担、国庫補助のあり方については今後の論議に。患者負担金は医療費控除対象とするよう財務省に申し入れるとされた。

4 骨髄移植推進キャンペーンミュージカル「明日への扉」公演情報

東京、大阪、福岡の各スクールオブミュージック専門学校の学生による「明日への扉」が今年も開催されます。1994年初演のこの作品は、ミュージカルスターを目指す若者たちが、ライバルでもある仲間の白血病発病という事態に直面し、骨髄バンクへの登録、そして提供するまでの心の揺れを中心に展開され、生きることの素晴らしさがエネルギーに伝わります。各会場とも入場無料です。

福岡：9月5日(木)、6日(金) アクロス福岡シンフォニーホール(福岡・天神)

問い合わせ：福岡スクールオブミュージック専門学校 電話 092-262-5280

東京：9月20日(金)、21日(土)、22日(日) 青山劇場(東京・神宮前)

問い合わせ：東京スクールオブミュージック専門学校 フリーダイヤル0120-532-304

大阪：9月25日(水)、26日(木) NHK大阪ホール(大阪・大手前)

問い合わせ：大阪スクールオブミュージック専門学校 フリーダイヤル0120-121-806

5 当財団各委員会開催予定

公開委員会の傍聴をご希望の方は事前に財団事務局までお問い合わせのうえ、お申込みくださいますようお願いいたします。

(各委員会の開催予定は<http://www.jmdp.or.jp/info/oshirase/index.html>をご覧ください)

国際協力事業の状況()、HLA照合サービス状況期間

日本 米国	
米国 日本	
日本 台湾	
台湾 日本	
日本 韓国	
韓国 日本	
その他の国 日本	

* 4半期ごとに掲載です。